



■ 新年のご挨拶

会長 宮本 信

会員の皆様、明けましておめでとうございます。ご家族ともども良い新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。昨年10月の総会で会長に選任されました宮本です。



昨年を振り返ってみますと、メジャーリーグでの大谷選手の大活躍や、今永・山本・ダルビッシュ等各選手の健闘、パリオリンピックでのやり投げの北口榛花選手をはじめとする金メダルラッシュ、さらにはサッカーワールドカップ予選での日本代表の圧倒的強さなどアスリートの皆さんの活躍が私たちを元気づけてくれました。

このようなスポーツ界における明るい話題とは裏腹に世の中全体を見ると、暗いニュースが多かったのではないのでしょうか？

国内では、いわゆる「とくりゅう」による強盗傷害事件の多発、円安や様々な要因によるガソリン等エネルギー及び食料品のたび重なる値上げが行われ、政治の世界では自民党の裏金問題や兵庫県知事のパワハラ疑惑に端を発した一連の騒動など、愉快ではない出来事が多くありました。

世の中の変化が激しく進む中、気候の変化も同様のようです。夏の猛暑では熱中症になり、年末になっての強烈な寒波は体に堪えました。

世界に目を転じてみると、未だ争いが絶えません。開戦以来まもなく3年にもなるロシア-ウクライナ戦争は北朝鮮を巻き込んだ新たな展開に進み、

中東におけるイスラエルとアラブ諸国の紛争では一方的な攻撃で多くの犠牲者が生じています。

政治動向では、アメリカファーストを唱え自国さえ良ければ他国との軋轢も辞さない姿勢のトランプ政権が誕生します。世界各国は第2次トランプ政権がどのような政策を打ち出してくるのか戦々恐々とした目で見ているのではないのでしょうか。

他方、多くの人口や資源を持ち一段と発展が見込まれる“BRICS”の中心として存在感を増す中国、この米中超大国同士の今後の動向には目を離すことができません。

EUの主要国であるドイツやフランスの議会で首相の不信任案が可決され、隣国韓国では大統領の弾劾が議決されるなど、これまで私たちが信じてきた民主主義を揺るがす不安定な状況が広がっているように感じています。

最近、「テレビなどのオールドメディアからSNSの時代へ」と言われていますが、SNSにはいわゆるフェイクニュースと言われる偽情報も多々あります。昨今の不安定な状況の中、自分の目や耳を駆使して「何が真実か」を見極める事が必要です。そのためには、私達がこれまで培ってきた絆を保ち、お互いの交流をさらに深めて行くことが大切ではないのでしょうか。



今年も皆様とともにシニアクラブ活動を活発に推進してまいります。皆様の積極的なご参加をよろしくお願ひ申し上げます。

■ Online 会合報告 (2024. 12. 24)

雪国では「ホワイトクリスマス」ならぬ「ホワイトアウト」状態の大雪。今回はそんな映像送信から始まりました。<http://jvc-senior.com/20241224online.pdf> を参照。



■ 気心

年末のNHK番組「チョコちゃんに叱られる」で善玉・悪玉の話がありました。ご覧になった方も多いことと思います。

もとは善魂・悪魂といわれていたものが現在のよう

に表されるようになったとのこと。そして、その単語は江戸時代の戯作者「山東京伝」が書いた「心学早染草(しんがくはやそめくさ)」という黄表紙(現在の漫画)に登場しているとのこと、物語のあらすじは次のサイトが参考になります。

<https://note.com/kando00/n/n0518894d43a7>

善魂、悪魂が擬人化され人の体内に宿って、その人の行動を司るという話です。この本が江戸庶民に多に売れたようで、翌年その第2話ともいべき「人間一生胸算用」という本が発行されました。(版元は今年のNHK大河ドラマ主人公 蔦屋重三郎)

<https://zaimokuza-shobo.jp/oedo/munazanyou/> 参照



この本では、気や心、手、足、目、耳、鼻、口が擬人化されて人の体内で一つの国家を形成しているという設定で、善魂の計らいで

その様子を山東京伝本人が人の体内に入って見てくるとい話です。かつて見たアメリカ映画「ミクロの決死圏」と同じで、ミクロな人間となって人の体内に入るとい発想をはるか昔の江戸時代の日本人が持っていたとはなんともユニークなことです。

「気心」といえば一心同体のようなものですが、ここでは「気」と「心」が別人格で目や耳ほか一同からの反発で「気」が「心」を国の隅に追放してしまう事になります。そうなる結果はどうなるか。

以下、この本の中からそのまま引用します。

「孟子も『性は善なり』と云っているように、天から生まれたときは心はみな良き心である。しかし、おのれの心のゆるみから気が悪さをし、目、耳、鼻、口から手足まで、みな勝手なことをやって心の支配をはなれると、国が乱れるのだ。」

新年の抱負を述べる前に、この本を読んで皆さんそれぞれ考えてみませんか。

■ 少数与党(国民の意思は多様化)

昨年の衆院選で与党の議席は過半数を割って与党の国会運営には苦勞が強いられています。

昨年の臨時国会での補正予算案審議では自公の与党に国民民主党や日本維新の会が賛成に加わり法案が成立しました。そこに至るまでに与野党間の色々な駆け引きが行われました。

国民民主党の「103万円の壁を178万円に」とか日本維新の会の「高校教育無償化」の要求がどこまで実現されるのか、与野党間で真剣な話し合いがあったことと思います。ここではその結果には触れませんが、「民主主義の基本」を考えるに、与党が過半数に満たない議会というものは多くの国民にとって歓迎すべきものではないでしょうか。

万年与党 vs 万年野党という状況が長年続けば、与党の驕りを招き、他方ただ反対するだけの野党という形を招いてしまいます。それは地方自治体の長までが何も考えなくなってしまうという現実を如実に示していたかのようです。

現に国民民主党の178万円案には、7~8兆円もの税収減となり、地方財政が破綻して「学校給食やゴミ収集ができなくなる」などと言った意見も出て、モノの例えとはいえ極端な話がまかり通りました。

まさにネガティブが先に立って、どうしたらよいかというポジティブな思考が働いていないようです。

勿論178万円を提案する側にも、税収減に対する具体的な策を示す義務があったと思います。

一方で、少数与党のために国の指導者の力が不安定であれば、国家間での交渉には相手方から足元を見られてしまうという弱点もあります。

国民の考えが多様化する中、民主主義国家において単独政党で過半数ということは難しくなっています。欧州諸国では連立政権が主流となっています。強固な連立政権を構成するには強い指導者と、国民一人一人のしっかりとした意思が大切です。無関心ではなりません。



■ 事務局から

・会社 JVC ケンウッドは入江本社ビルに隣接し新しいビルを建設して首都圏近郊の事業所集約を図ってきました。そのために本社ビル10階にあった労組本部は昨年2月に近くの安田倉庫TVPビルに移転しています。この度、その新しいビルが完成したとの案内がありましたので次をご覧ください。

<https://www.jvckenwood.com/jp/press/2024/1204-01.html>

<https://av.watch.impress.co.jp/docs/topic/1645081.html>

事務局長 田代 周